

学校の教育目標			未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成				経営理念				チーム風早小で進める学校運営 ① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール						
評価計画							自己評価					学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			改善方策		
中期経営目標		短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策		達成値 10月 2月		達成度	評価	結果と課題の分析			評価 A B C		コメント	改善方策
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】 児童の自己調整力を高め、主体的に学ぶ児童の育成 ～国語科・算数科における自由進度学習を通して～	・国語科、算数科の学習において、自分で学習方法を選択し、学びを進めている児童80%以上。 ・標準学力調査の平均正答率を各学年が上回る。	80% ★	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人1回以上行う。 ・各担任は年間1単元以上、自由進度学習を取り入れた授業を実施する。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。		91% 60%	96% 50%	85%	2	・自分で学習方法を選択して学びを進めていると答えた児童が96%と前期より向上した。ICTを効果的に活用したり、児童の実態を踏まえて学習カードや学習コーナーを複数用意したりすることで、意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。 ・12月実施の標準学力調査の結果、全国平均を上回った学年が6学年中、3学年となった。全学年を通して国語科の得点が低かった。文章を読み、内容を理解することに課題がある。パワーアップタイムでは算数科の学習をすることが多かったため、来年度は曜日ごとに教科を決めて行う必要がある。また、学習ワークを活用して、読解問題に取り組ませていく。				○	・テストの結果が下がっているが、平均を下回っている学年は固定化しているのか。また、二極化になっていないか。 ・自ら学びを進めている児童が90%以上なのは大きな成果。	・平均より中央値を明確にし、取組を考えてみては。 ・教えることが学びにつながるの、児童が先生になるのもよい。 ・「できた喜び」を日々積み上げていくことで、学力や自信の向上につなげる。
		ICTの効果的な活用	ICTを効果的に活用した授業を週1回以上行う。(教職員の肯定的評価85%以上)	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。		100%	100%	100%	3	・ICTを効果的に活用した授業は日常的に行われている。 ・校内研修は短い時間で効率的に行うことができた。 ・ICTコンペで優秀賞3人。タイピング大会の基準値をクリアした児童も増えている。6年生は在籍数の8割が基準値を超えた。(市内で7学級のみ) ・活用事例の蓄積と共有化は不十分だった。			○		・ICT活用が定着し、学習への反映が見られる。 ・継続は力なり。	・ICTの可能性を感じられるチャレンジをする。
豊かな心	向上的変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底 (挨拶・返事)	自分から進んで気持ちの良いあいさつができる児童の自己評価85%以上	85%	・放送で、各学年による振り返りを行う。 ・学級で月ごとの振り返りを行う。 自己評価 …毎日 →肯定的評価90%以上		94%	93%	117%	4	・児童会を中心としたあいさつ運動により、あいさつを進んで行う児童が目標値85%を上回る93%であった。今後、大人が良いお手本となり、状況に応じた挨拶・返事ができるように指導していく。 ・毎月の風早プライドを担当の学年が発表し、振り返りを各学年の代表の児童が発表することで、学校生活のきまりを守る意識を高めることができた。			○		・日々の細かい取組の成果が見られる。 ・学校の特色であり、児童の自信につながっている。	・授業中の返事を大切に するなど、当たり前を当たり前 にさせることで力を付ける。
		読書習慣の定着	本を読むことが好きな児童の自己評価80%以上 年間目標読書量(60冊以上)を達成した児童の割合80%以上	80% 80%	・毎週月曜日と木曜日に、15分間の朝読書を行う。 ・読んだ本を記録する。(読書貯金) ・図書祭で、読書量の多い児童を表彰する。 ・図書委員による、スタンプラリーの実施。		68% 64%	82% 57%	103% 71%	3 2	朝読書の徹底や図書委員会の取り組みにより、全体の読書量は多い。こつこつ読書貯金をしている児童がたくさんいる一方で、読書量の差が大きく、特に高学年は委員会の仕事などで忙しく、読書に多くの時間を割くことができなかったと考えられる。また、学年によって読書が好きな児童とそうでない児童の割合にばらつきがあった。より多くの児童が本に興味をもてるよう、学級で図書室に行き、本を借りたり読んだりする機会を増やしていく。				○	・達成度が低い。本の数は十分か心配。 ・読書量の個人差は当然。	・読書のよさを全体で紹介できる場をたくさん設定する。
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	「挑戦カード」と「50m走」の計測記録で、目標の記録を意識して取り組むことができた児童の割合80%以上	80%	・「50m走」の記録測定を年間2回行う。 ・授業内の児童の運動量の増加を目指すための場づくりや活動内容の工夫改善。 ・準備運動に、「縄とび」を加え、年間を通して地面をける力を鍛え、すばやく動作を繰り返す能力を高めていく。 ・ロング昼休憩を活用したブレイタイムの実施 ・年間を通して使用する挑戦カード(なわとびカード・水泳カードを含む。)を作成する。		70%	86%	107%	3	・2回目の50mの測定で、50%程度の児童のみ前回の記録を上回ることができた。全校児童で走力を高める運動を継続的に行う必要がある。 ・1年間継続して、縄跳び運動を全校朝会や体育の授業で実践し、児童会を中心としたブレイタイムの実践により、年間を通して運動をする機会を確保することができた。 ・水泳・持久走では、約90%の児童が目標の挑戦カードに記録した目標のタイムを意識して挑戦することができた。				○	・身体的に不利な児童へのサポートが欲しい。 ・今年度の県平均と比較した指標が必要。	・課題を明確にした取組を行う。 ・もっと理論を学ぶ時間を増やす。
		基本的な生活習慣の向上	「自分が決めた就寝・起床時刻を守る」児童の割合80%以上 「自分が決めたゲーム遊びの時間、メディア視聴の時間を守る」児童の割合80%以上	80% 80%	・生活習慣アンケートを前後期1回ずつ実施する。 ・生活習慣に関する保健指導を児童へ実施する。 ・保健だよりや懇談会等を通して、「睡眠の大切さ」や「メディアとの付き合い方」について保護者に呼びかける。		72% 88%	69% 85%	96%	3	2回目の生活カード期間中はインフルエンザに罹患していた児童や学年閉鎖などの影響により、計画通りに生活が出来なかった児童もいた。その一方で前回より就寝時刻を意識して生活することが出来ていたため1回目の結果と比べて就寝時刻の達成度が上がっていた。今後も各学年に行っている保健指導を工夫したり、家庭へほけんだよりを発信したりするなど継続した啓発を行っていく。				○	・達成度が低いものがある。保護者啓発を積極的に行って欲しい。	・学校便り、ホームページ等で保護者に積極的に啓発する。
開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型の生活科・総合的な学習の時間」の推進	地域への愛着度についての児童アンケートの肯定的評価90%以上	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。 ・学校だより、C.Sだよりを月1回発行する。		95%	94%	104%	3	・MT招致や地域連携はどの学年もほぼ実施完了。 ・校内研修(大人の町探検)を3回実施。教職員に風早小の魅力発信する事ができた。 ・ボランティア募集について一斉メールを頻繁に活用することで、ボランティアの種類と必要性を周知することができた。その結果、認知度向上。しかし、働く保護者も多いことから、今後参加者を増やすためには募集方法や時期の見直しが必要である。			○		・コミュニティスクールの積み重ねを大切にしたい。 ・とてもよく、レベルアップできている。	・地域愛につながる実践に取り組む。 ・あえて、空き家や耕作放棄地を見せ、社会的な課題を取り上げ、問題解決学習を行う。
	働き方改革と業務改善の推進	教職員が健康で働きがいのある職場づくり	学校は、働きがいがあると感じる教職員の割合90%以上	90%	・平日の最終退校時刻を守れるように声を掛け、水曜日は、原則定時退校とし、超過勤務平均を毎月45時間未満とする。 ・業務改善、業務削減に係る意識調査を年2回実施し、企画委員会等で協議し、実施できることを全職員の共通認識のもと取り組む。		100%	100%	111%	4	働きがいがあると感じている教職員は、前期に続き100%であった。また、超過勤務時間の平均は、34時間51分(1月末)で、プライベートの充実を挙げている教員もいる。教師のソフト・ハード面でのリフレッシュが子供にとってもよい影響を及ぼすので、今後もコミュニケーションの充実を図り、日課表等の見直しをするなど、風通しの良い職場づくりや働き方改革において全教職員で共通認識をもって取り組む。			○		・教師のプライベートを是非充実させて欲しい。 ・業務量を検討するべき。 ・改善案を考えて欲しい。 ・選択と集中。働き甲斐こそ学校の使命だと思う。	・改善策を実施し、どうだったかまで話し合い、次につなげる。

評価★ 4…目標を上回って達成(5／6学級以上) 3…目標どおりに達成(4／6学級)
2…目標をやや下回って達成(3／6学級) 1…目標をかなり下回ってに達成(2／6学級以下)

評価 4…目標を上回って達成(110％～) 3…目標どおりに達成(90％～110％)
2…目標をやや下回って達成(70～90％) 1…目標をかなり下回って達成(～70％)